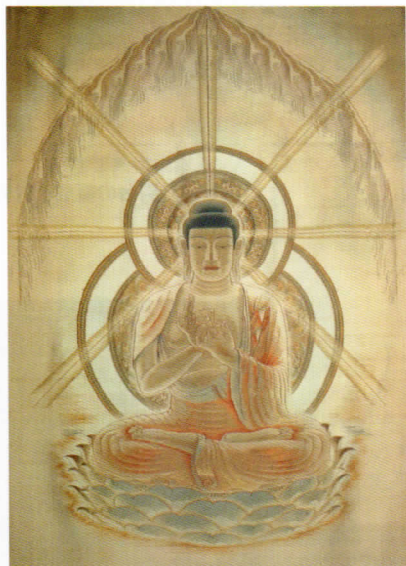


「平和の文化」を未来に

1945年11月、世界平和のために設立されたユネスコ（国連教育科学文化機関）憲章前文には、「戦争は人の心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和の砦を気づかなければならない」と謳われている。この理念に共鳴し、館山では1948年に民間ユネスコ運動が始まり、今なお世界で唯一ユネスコの名がついた保育園が運営されている。



「平和の文化」とは、争いを対話によって解決していこうとする考え方や行動様式のことである。ユネスコの提唱を受けて、国連は2000年を「平和の文化国際年」と宣言し、2001～10年を「世界の子どもたちのための非暴力と平和の文化国際10年」と定めた。私たちもこの理念を継承して、地域の文化遺産を活かして人々が支え合う持続可能な地域社会を未来に手渡したいと願っている。



国連に寄贈した錦織／遠藤虚籟・和田秋野

錦織（にしきつづれおり）作家の遠藤虚籟（えんどうきょらい）と和田秋野は、戦前戦後に館山に暮らした。1951年、戦没者供養と世界平和を祈って「曼荼羅中尊阿弥陀如来像」を織り上げ、全日本仏教徒の総意として、国連NY本部に寄贈した。

長崎平和祈念像で知られる彫刻家の北村西望（せいぼう）は、1928年安房水産学校長の銅像を作ったが、金属の不足した戦時下に供出を命じられた。その時教員たちは石膏で型を残し、戦後に同窓会が再建している。

戦後、キリスト教牧師・深津文雄は、戦争で苦しんだ女性たちの保護施設「かにた婦人の村」を、世界中の支援を受けて館山に開いた。ここで暮らす城田すず子（仮名）の告白を受けて、戦後40年の時に「憶従軍慰安婦」と刻まれた慰霊碑が建てられた。その12年前に、鴨川市にも「名もなき女の碑」と刻まれた碑が建立されている。

歴史に育まれた「館山まるごと博物館」には、安房の先人が培ってきた「平和・交流・共生」の精神が輝いている。それはまさに、現代に生きる私たちの祈りともいえる。



安房水産学校長銅像



「憶従軍慰安婦」碑



「名も無き女の碑」

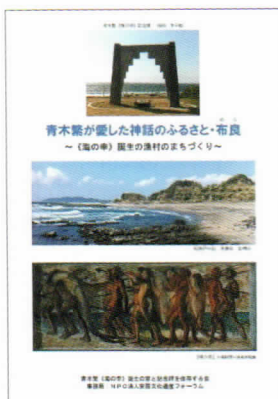
書籍の紹介



DVD 『館山まるごと博物館』
『南房総の戦争遺跡』 各600円



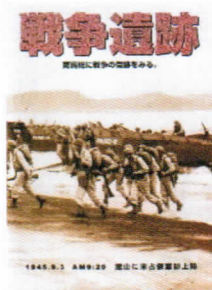
『館山まるごと博物館』
600円 (B5/64頁)



『青木繁《海の幸》誕生の漁村まちづくり』
600円 (A4/32頁)



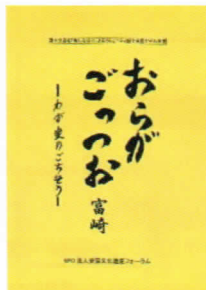
『へリテージまちづくりのあゆみ』
1,000円 (A4/128頁)



あわがいで①
『戦争遺跡』
600円 (A5/48頁)



あわがいで②
『房総里見氏』
600円 (A4変形/32頁)



漁村のレシピ集
『おらがごっつお』
600円 (A5/64頁)



小学生が作った
『タカラガイ図鑑』
600円 (A6/64頁)

【入会案内】

- A 会員：NPOの趣旨に賛同し、日常の活動や運営を支え、年1回の総会に参加する個人。

*年会費：10,000円

- B 会員：NPOの趣旨に賛同し、情報を共有し、あるいは資金等の援助をする個人または法人。

*年会費：個人2,000円、法人10,000円

・振替口座：ゆうちょ銀行00260-1-97307 名義：NPO法人安房文化遺産フォーラム